

# 風

有森信二

風が  
南京ハゼの葉を  
吹き抜けると  
いつせいに  
あたりの信号が  
人混みの中を  
歩きはじめ

小鳥たちが  
実を啄みにきたら  
風の中に  
ぽっかり開いた  
口腔たちが  
白く笑いはじめ

# 広場

夜の広場に来て  
俺はやつと  
ビニールの覆いをとる  
冷たく攪拌された空気の中で  
土と埃と汗に汚れた頬を  
晒し出す

# 自由

遊び呆けて日が暮れる  
やぶれかぶれの心には  
なにもない  
とてつもなく広い場所  
とてつもなく多い人間  
俺は完全に迷子になる  
とてつもない自由を捨つため

## 愛情

愛情を受けずに育った者は  
愛情を知らない  
愛するということが  
ただ黙って  
ひしと包み込んでやるものだ  
ということすら知らない

## 女

垂れ下げた手の重みを  
女は知らない  
赫々と眩しい夢見の中  
一気にもぼりつめた空から  
ほの蒼い霧が降る

## 太陽

日は命の始原  
日は命の終焉  
日が生み出した命は  
億兆を超え  
億兆を超え  
億兆を超え  
億兆を超え

## 磁気嵐

いとも簡単に  
権力者たちは  
国と国とのゲームを  
目論んだり  
ゲームに  
のめり込んだりする

## 詩的連想以外の連想

雑踏の中で  
俺は女の尻に  
火をつけた

じりじり焦げていく

臭いは

あたりを

屁の中に

蹴込んだようだった

とりまく人間どもは

ろくでもない

間抜けでバカな奴らめ

と叫びよった

ところが女の

神品ともいうべき

山吹色の

観音仏が露出されると

彼らは

眼を瞪り

涙を流した

彼らはみんな

そこから来た

彼女らもみんな

そこから来た

案の定

俺は

石打たれ

爪を剥がされ

監獄にぶち込まれた

# 完全調和

物質も存在しない  
時間も存在しない  
空間も存在しない

存在しないことが  
永劫に回帰する

見てごらん  
何にもない  
何にも存在しない

肉体もない  
欲望もない  
争いもない

男もない

女もない  
魂もない

嘘もない  
偽りもない  
宙空だとか呼ばれた  
小劇場もない

神も  
仏も  
存在しない

かつて瞬毫の間  
幻の戯画が  
一閃したという  
気配すらない